

ISS2023 に参加して

ISSとは

ハリー・メッセル国際科学学校 (International Science School, ISS) は、2年おきにシドニー大学で開催され、2週間、科学の講義や施設でのワークショップ、世界中から集まる100人以上の学生との交流を体験できるプログラムです。

私は昨年このISSの募集を見て、このプログラムに参加すれば、私のある夢の実現に一步近づくのではないかと思いました。

たとえば悪名高い大泥棒が大物を狙うとき、何人もの情報屋や協力者と手を組みますよね。それと同じように、将来自分が大きな問題にぶち当たったとき、エキスパートの友人に助けを求められれば、自分だけでは思いつかない解決法を見つけられるはずです。そして、私自身もエキスパートになることでその人たちの<情報屋>になれるし、そのネットワークを世界中に広げれば、みんなそれぞれが自分の専門分野でさらに活躍できるのではと思ったのです。ISS2023が終わって2か月以上たちますが、その夢をかなえるにはこれからが本番だと思っています！

それでは、プログラムの様子を紹介します。

講義・ワークショップ

ISSの一番の特徴は講義とワークショップのレベルの高さです。初日のレクチャーは原子力についてで、1時間目から見慣れないグラフや見慣れない記号がわんさか登場し、誰に聞いても「あれはわからなかった笑」と言うほど高レベルでした。ノートにはスライドの半分も写せなかったし、わからない言葉をメモしようとする話が聞けない、話を聞こうとしても専門用語が多くてわからない、調べていると話が進む…。「どうやって受ければいいんだ!？」初日のこのレクチャーでは絶望しました。

同じ日の実験のワークショップも大変で、私はマイクロピペットの説明に追いつけず操作を間違えてしまいました。マイクロピペットには2つのストップがあり、1つ目のストップまで押して戻すことで吸い込み、そのあと2つ目のストップまで押すことで吸い込んだものを出し切る、という仕組みになっています。それを、2つ目のストップまで押して吸い込んでしまい、スタッフに確認してもらわなければ試薬の量が本来の何倍も多くなるどころでした。

初日に限らずほとんど全てのワークショップで、とりあえず操作はするけれど常に「いま何やってんだ？」という状態でした。説明の書いてある資料もろくに読めず、実験でパートナーになった人に、なぜこの操作をするのか、操作をすることで何がわかるか、いちいち聞きながら実験を進めていました。追いつくことができずに、実験結果がわかるまで待機しているときには、ほぼ泣きそうになっていました。

泣きそうといえば、科学倫理のワークショップでは文字通り泣きました。スピードの速い議論に追いつけないことが本当につらかった…。出発前、過去の参加生の体験談などを読み、科学倫理のワークショップがプログラムのなかで重要な位置を占めることは知っていましたし、考えがまとまっていなくても一度は発言しようと意気込んでいました。それにもかかわらず、言えそうなことを頭の中で整理しているうちにほかの人が手を挙げ、それに対して何か言おうかな、と考えているうちにスタッフが話をまとめ始める…。どうしても普段経験する議論のリズムでは追いつけませんでした。実は2週目にも科学倫理のディスカッションがあったのですが、ここでも発言することができずまたもや泣くと

ころでした…。

それでも、プログラムを通して出会った人々のおかげで、最後まで生き延びることができました。特に、初日の泣きそうになったワークショップでのパートナーは、その後の実験でも毎回付き添ってくれ、本当に助かりました。資料を見ても意味がわからずなんのこっちゃ?とと思っているときには、必ず彼女がいてくれて、これってこういうこと?あれってこういうこと?としつこいぐらい何回も質問をした気がします。それでも全部、本当に全部、丁寧に教えてくれました。そのうえ自分が気になっていることはラボのスタッフに何回でも質問する、彼女の姿勢には圧倒されました…!

2週目に入るころには、講義の受け方がようやく分かってきたと感じました。事前に配られたインタビュー集を見て、よく出てくる言葉をノートにメモしておこうとか、それ以外の言葉は講義で説明されるだろうなどと考えることができるようになっていて、勝手に分かってきたという感覚がありました。

科学だけじゃない ISS

出発前の空港でのことですが、初めて日本チームの仲間と対面し、自分の地域や学校の話共有できたことで、多くの発見がありました。チームの中には離島から来たという人もいて、島と本土の生活の違いを教えてもらったり、沖縄や鹿児島に「朝課外」という時間が設けられている学校があるということなどを知ったりして、出発前までもがカルチャーショックの多い時間でした。

ましてや現地では、オーストラリアからの応募枠で参加した人の中でも、香港やロシア、アメリカから移住したとか、家族がオランダ語を話すけれど教えてくれないから独学中だとか、日本人のハーフでずっとオーストラリアに住んでいるけれど、小学校に入るまで日本語しか話したことがなかったなど、さまざまな地域にルーツを持つ人が集まっていました。その人たちの話を聞いているときは、楽しくなって「そうそう、こういうのが聞きたかったんだ!」と思いながらニヤニヤしていた記憶があります。

その中でも印象に残ったエピソードがあります。研修中のある日、オーストラリア出身の学生がタイから来た学生にオーストラリアのお土産を渡そうとしていたのですが、返すものがないから受け取れないという意見と、プレゼントは受け取らないと失礼だという意見の違いのせいで、十分以上も押し問答が続いていました。最後には周りの人も集まって、科学倫理の議論より白熱し、スタッフにまで説得を頼むことになりました…!

また別のエピソードですが、ある日、寮から朝のミーティングに向かう途中で、道路の向かい側から「みんなおはよう、良い一日を!」と声をかけてくれた方がいました。そのおかげで、その日はほっこりした気持ちで一日を始められました!このように現地の空気を体感できるのも ISS の醍醐味だと思います。

さらに、常にジョークを言ってやろうとたくらむ人が多く、ダークマターについての講義では教授がスマホを取り出し、方角を確認して「ダークマターはこっから来てるな」と言ったところ、誰かがとっさに「道を空けよう!」と返したことでみんなの爆笑を引き起こしたのは一番印象的でした。

プログラム 2 週目にはタレントナイトというイベントがありました。タレントナイトでは、ISS の参加生たちが個人やグループで得意なことを発表したり、自分の国の文化を発信したりします。日本チームは今年、寿限無を英語で披露しました。2 週目に入るまで何の計画もなかったのですが、本番はなぜかメンバーがリコーダーを持っていて、BGM まで吹いてくれ、何とかなりました…!そしてパフォーマンス中には、意外にも会場中が笑って盛り上がりしてくれました。特に、初めて寿限無の名前が出てきたときには、最初はなんだ??という空気が漂っていましたが、だんだんクスクスと笑い声が聞こえてきて、3、4 回目ともなると流れがわかってきたようで、待ってましたとばかりにみんなが大爆笑

してくれ、翻訳してもなお世界の人々に伝わる落語の力を目の当たりにしました！

それをさらに超えて強烈に記憶に残ったこともあります。それは、ノートとボールペンだけで図鑑が作れた!ということです。参加した学生にはノートとボールペンが配られたのですが、私はそのもらったノートにももらったボールペンでメモがしたくて、講義にはその 2 つだけ持って行きました。蛍光ペンもない。赤ペンすらない。ノートとペン一本だけだったのに、書いたノートはなぜか見返すのが楽しいんです!図鑑を見ているような気分になります。ノートを作ることの楽しさを肌で感じました!実は、講義の紹介で書いたように、スクリーンに映されるスライドの半分も書き写していなかったため、ノートは穴だらけです。でも、2 週間、問題集を解くだけの勉強から離れて、興味のあることもないこともひくくめて、必死にノートにメモをする時間を過ごせたのはとてもいい経験でした…!

ISS2023 を終えて

ISS が始まる前、プログラムで扱う内容がハイレベルであることはわかっていたので、準備しておこうと物理の本を読み、講師の研究を調べ、過去のアーカイブも観ました。しかし実際に行くと、頭に入れたはずの言葉はもう忘れていて、聞き取れない、まったく予期しない分野の話が登場する…。今でも、頑張ったのに追いつけなかったという感覚があります。というより、追いつけないくらい、吸収しきれないくらいの量の知識や体験を、ISS は用意して待っていたのだと思います。

今になって、どう用意しても十分でないようにプログラムが準備されていたんだとわかりました。だから、自分は理科の成績が良くないとか、海外行けるほど英語は話せないとか、そんなに社交的ではないとかは、ISS に行くにあたって問題ではありません(私だって物理の成績は3です)。いや、問題ではあるけど、どうあがいても ISS はその上を見せてきます。

ISS に興味がある、ISS に応募しようとしているというみなさん、ISS はいうまでもなく最高のプログラムです。ぜひ挑戦してください!晴れて参加が決まったというみなさん、やりたいことをやってきてください!ISS での体験は、みなさんがどう参加しても最高なものになるはずですよ。そして ISS が終わってさてどうしようかと考えているみなさん、スマホに入れている写真は今すぐ共有しましょう。みんなからも写真をもらいましょう。とにかく、記憶と記録を残すためにできる限りのことをしましょう!みなさんの体験は自分にとっても、次に参加する人たちにとっても、重要なものになるはずですよ。

私は現在、ISS を通じてできたいろいろな人とのつながりを維持しようと頑張っています。このプログラムのおかげで、自他ともに認める宇宙オタクだという人や、化学のプロジェクトを頑張っているという人、医学の道に進むため奮闘しているという人など、すでに様々な分野でエキスパートになりつつある人々に出会うことができました。はじめに書いたとおり、私は、みんなそれぞれが私の<情報屋>になってくれる、そして私自身も彼らの<情報屋>になるということを企んでいます。第一にみんなが、友達として最高の人たちばかりです。これからこの仲間たちと、世界中で暗躍、いや、活躍していきたいと思っています!



左が化学、上は地学のワークショップの様子。



左下は修了式後の集合写真、右はシドニー大学内のグラフィティ・トンネルでの集合写真。チームのみんなと。

右下はチームのマスコット。後ろにいるのは講義を受ける仲間たち!



ここまで読んでくださりありがとうございました!

ISS をもっと知りたい方へ

文部科学省オーストラリア科学奨学生(ハリー・メッセル国際科学学校)プログラムについて

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/koukousei/1329153.htm

ISS 2023 紹介ページ

[International Science School - Faculty of Science \(sydney.edu.au\)](https://www.sydney.edu.au/science/iss/)

講義動画

<https://www.youtube.com/@TheSydneyISS>